

ぼむ・ぼむ通信

No. 64

生協の組合員と日本ユニセフ協会を結ぶネットワーク通信「ぼむぼむ通信」は、生協組合員のボランティアグループで発行・編集をしています。生協のユニセフ活動に積極的にご活用ください。



© 日本ユニセフ協会/2014
第32回ユニセフ・ラブウォーク中央大会より



©日本ユニセフ協会/2014
シンポジウム「未来をつくる私がおとなに伝えたいこと～子どもと築く復興まちづくり」より

目次

◇人道危機緊急募金	1
中央アフリカ共和国～憎しみと争いの連鎖に巻き込まれる子どもたち～	
◇知っとこ。ユニセフ 私たちの復興	4
◇世界の子どもたちは今 中央アフリカ共和国	5
◇生協のユニセフ支援活動	6
*コープみらい（さいたまエリア） *秋田県生協連	
*「フィリピン台風緊急募金」に全国86生協から1億円超の募金が寄せられました！	
◇トピックス	
* 満25歳を迎える「子どもの権利条約」	8
* 第32回ユニセフ・ラブウォーク中央大会が開催されました	9
* 2013年度ユニセフ募金集計報告	10

ぼむ・ぼむ通信 活用のすすめ

- すべてのページをコピーしなくとも、「知っとこ。ユニセフ」や「世界の子どもたちは今」を集めて、資料としてご活用いただけます。
- ユニセフのつどいやユニセフ展、学習会の際に資料としてご活用いただけます。
- 店舗の募金箱の近くに置いて、生協のユニセフ活動を紹介する際にご活用いただけます。
- 生協の管理している文化センターなど、共用施設の雑誌コーナーなどにもご活用いただけます。
- 写真のコンテンツも充実しているので、カラーコピーでのご使用をおすすめします。



人道危機緊急募金 中央アフリカ共和国～ 憎しみと争いの連鎖に巻き込まれる子どもたち～

1960 年の独立以来、相次ぐ動乱や独裁政治が続き、“国家としての体”を成していない状況に、「破たん国家」以上の「幽霊国家(Phantom State)」と呼ばれていた中央アフリカ共和国。今、泥沼化する内戦でさらに“崩壊の危機”に瀕し、人道支援関係者から、“子どもにとって世界最悪の場所の一つ”とも称されています。

2012 年 12 月に、宗教勢力の対立の形で始まった今回の紛争は、指導者のコントロールを失った武装勢力や武装した個人が国内各地を暴力と恐怖で支配する事態に発展。その矛先は、子どもや女性にも直接的な形で向けられる事態に陥っています。

数十年にわたり、この国で人道・開発支援活動を続けているユニセフは、今回の内戦の勃発を受け、緊急人道支援活動を開始。子どもたちの命を繋ぐ「水」や「栄養」、「衛生」、「医療(保健)」などに加え、紛争前から深刻な状況が続いている「HIV/エイズ」、そして、紛争に巻き込まれた子どもたちの「心のケア」や「社会復帰」、「教育」の再開などの分野での支援活動を展開しています。

◆ 解放された子どもの兵士 1,000 人以上 ～しかし依然として 6,000 人の子ども兵士



©UNICEF/2014/Jordi Matas

武装勢力に徴用されていた子どもと、話を聞くスタッフ。現在は解放され、職業訓練などの支援を受けています

た状況は、言葉にできないほどの残虐な行為の中で子どもたちが日々を生き抜いていることの現れです。子どもの権利へのあからさまな侵害であり、必ずや罰しなければなりません」と述べました。

ディアベット代表は「私たちが話を聞くことができた子どもたちのだれもが、武装勢力を離れ、学校に戻りたいと話してくれました。こうした子どもたちを見捨てることなどできません」と続けます。

ユニセフはパートナー団体とともに、解放された子どもたちに心身のケアや家族を捜して帰れるようにすること、復学の支援など、複数の支援を行っています。年長の子どもたちには、学習の機会に加え、職業訓練も受けられるようにしています。



©UNICEF/PFPG2013P-0445/Duvillier
ボサンゴア難民キャンプの「子どもにやさしい空間」
に通うフェリシアちゃん(13歳)

ユニセフとパートナー団体は、中央アフリカで今年だけで 1,000 人以上の子どもが武装勢力から解放されたことを確認しました。この人数は 2013 年に解放された子どもの 5 倍以上にあたります。

しかし、依然として紛争で荒廃した中央アフリカには、数千人もの子どもが武装勢力に徴用されています。2012 年の 12 月の戦闘激化以降、子どもの兵士は推計で 3,500 人から約 6,000 人へとほぼ倍増しています。

ユニセフ・中央アフリカ事務所のスレマン・ディアベット代表は「この残虐な戦闘で、徴用されている子どもの数は増加の一途をたどっています。こうし

た状況は、言葉にできないほどの残虐な行為の中で子どもたちが日々を生き抜いていることの現れです。子どもの権利へのあからさまな侵害であり、必ずや罰しなければなりません」と述べました。

◆ 避難しているアデリーヌさん家族 「大切な兄弟は殺され、家は焼き討ちに」

教会の敷地に避難しているアデリーヌさん。1,300 人以上の男性、女性、子どもたちが避難しており、拡大する紛争で避難してきた人たちの非公式居住地となっています。

夜になって銃撃が始まると、アデリーヌさんは飛び起き、1歳過ぎの息子ディマンシュ・ジーザス君を抱え、急いで茂みの中に隠れます。このような夜を数えきれないほど過ごしています。アデリーヌさんの動きはゆっくりで、疲れた目が極度の疲労を物語っています。

● 紛争に巻き込まれて

アデリーヌさんと家族は、2週間前にキャンプに到着しました。マンゴーの木の下にある医療相談所の順番を待つ長い列に並んでいる間、自分の話をしてくれました。「畑で働いていたとき突然武装した男たちが現れ、私たちに向かって銃を撃ち始めました。全員命がけで逃げましたが、一人は逃れられませんでした。私の大切な兄弟は殺されたのです」。

目に涙を浮かべながら、家は強奪され、燃やされたと語ったアデリーヌさん。同じ日に夫と二人の子どもを連れて、10キロの道のりを歩いて教会の敷地にあるこの臨時避難所にきました。アデリーヌさんの家族は、中央アフリカ共和国で勃発した武力紛争で家を追われた何千もの家庭のひとつです。



© UNICEF Central African Republic/2014/Timme
避難民施設内で診察を受けるアデリーヌさんと
息子のディマンシュ・ジーザス君



© UNICEF Central African Republic/2014/Timme
支援が最も必要な人たちへのアクセスが依然として難しい状況になっている

● 避難で高まるマラリアの感染リスク

診察の順番が回ってくると、看護師のロジャーさんは、アデリーヌさんの息子の体温を測りました。息子のディマンシュ・ジーザス君の熱は高く、嘔吐もしており、マラリアにも感染しています。

ロジャーさんは「キャンプでは蚊帳の下で眠れますが、茂みに身を隠れなければならないときは蚊帳はありません。茂みで一晩を過ごさなければならなかつた恐ろしい夜に、マラリアに感染した可能性が高いでしょう」と話しました。

アデリーヌさんは息子用の薬を受け取りました。子どもが回復するには、子どもにも母親にもたくさんの休息と心の安らぎが必要です。そして、紛争に終止符が打たれることが欠かせません。

＜参考資料：日本ユニセフ協会ホームページ 人道危機緊急募金ニュース記事(4/9, 4/22, 5/16)を編集＞

◆ アグネス・チャン大使、中央アフリカ共和国 帰国報告会を開催



©日本ユニセフ協会/2014

アグネス・チャン日本ユニセフ協会大使

危機下にある中央アフリカ共和国をアグネス・チャン日本ユニセフ協会大使が訪問。帰国翌日である2014年4月22日、ユニセフハウスで行われた帰国報告会にて、暴力に巻き込まれる子どもたちの状況や、困難を伴う支援活動、平和にむけた教育の大切さなどを語り、ユニセフの緊急人道支援活動への支援を呼びかけました。

● 深刻な栄養不良の子どもたち

中央アフリカ共和国に位置するウハム州の州都ボサンゴアでは、複数の国内避難民キャンプや

保健センター、学校を訪れたアグネス大使。保健センターでは、紛争に巻き込まれて銃で撃たれた子どもたちや、家が焼かれてやけどを負ってしまった子どもたちに加え、重度の栄養不良で、動くことも食べることもできなくなってしまった子どもたちがあふれていた、とアグネス大使は語ります。口から栄養を摂ることも出来ない重度の栄養不良の子どもたちは、おへそや腕から栄養チューブや点滴で治療が施され、口から食べ物を摂れる子どもたちは「ランピー・ナツ」などの栄養治療食で栄養を補っています。

● 平和教育の重要性

また、アグネス大使が訪れた、ユニセフが支援している仮設学校では、保育園から高校まで16クラスあり、医者や先生になるため大学に進学したいという子どもたちもいます。この学校では、宗教にとらわれることなく仲良く暮らすことや、握手、和解、そして暴力はいけないということを教える平和教育も行われています。一度紛争が起きてしまうと、憎しみはなかなか消えることはありません。おとなが引き起こした憎しみと争いの連鎖の渦に子どもたちは巻き込まれ、そこから自力で出てくることはできません。



©日本ユニセフ協会/2014/S.Taura
「武装勢力に家族を殺された」と語る男の子
(4月17日 ボサンゴア)

豊かな自然資源に恵まれた中央アフリカ共和国に欠けているものは、お互いに平和に暮らす、『人間』という資源だと思います、と語るアグネス大使。質の良い教育が提供され、子どもたちが元気に育つ環境が整い、英知をもった指導者が育てば、国はもっと豊かになるはずです、と訴えました。

※帰国報告会の動画は日本ユニセフ協会ホームページにてご覧いただけます。
http://www.unicef.or.jp/children/children_now/central_africa/sek_cenaf39.html

◆ 人道危機緊急募金 ◆

日本ユニセフ協会では、中央アフリカ共和国や南スーダンをはじめ、紛争、武力衝突などの厳しい状況下に置かれている子どもたちに対してユニセフが行う緊急支援のための
人道危機緊急募金を受け付けています。あたたかいご支援をよろしくお願ひいたします。

郵便局(ゆうちょ銀行)募金口座

振替口座: 00190-5-31000

口座名義: 公益財団法人 日本ユニセフ協会

*通信欄に**人道危機**と明記願います。

*窓口からの振込の場合、送金手数料は免除されます。

知りたい？ 知っとこ。ユニセフ 私たちの復興

シンポジウム

2014年3月27日 ユニセフハウス

「未来をつくる私が おとなに伝えたいこと」

日本ユニセフ協会「子どもにやさしい復興計画」支援アドバイザーである、竹中工務店の岡田慎さん、岡田暁子さんからの活動報告より、シンポジウムは始まりました。

「復興は、ゼロからのまちづくり。10年 20年続くまちづくりです。新たなふるさとをつくり、そこで暮らしていくのは、今の子どもたち。子どもたちも、復興の主役です」

ユニセフは、子どもたちが“主役”的な一人として位置づけられる“子どもの参画”を、日本政府をはじめ関係各方面に働きかけています。

発表

あの時 3年生・・

被災地の学校の子どもたち（宮城県仙台市、岩手県大槌町、福島県相馬市の小学6年生）が、震災の体験から自分たちが学び、地域の復興のために考えたことを発表しました。

相馬の魅力をいかして
何かしたい！
協力すればできる。

発表順

未来の仙台・七郷はどう
なっているかな？ すてきな
町になってほしい。

未来の学校を考えよう。
こんな教室があったら
いいなあ・・（大槌小学校）

子どもの視点ならではの意見

★家族と何でもいいから話すと楽になった。
「話すことは大切」ということがわかった。

★大人もがんばっているけど子どもも、未来のためにがんばってもいいのではないか。



(C) 日本ユニセフ協会 /2014

子どもの力ってすごい！

★子どもは、まだ未来も夢も希望も持っているので、もっと（私たちを）活用してほしい。

★今のまわりには、いい環境や自然がいっぱい。復興の建物建設などでなくならないよう、いいところを残した復興であってほしい。

支援を受けるだけではなく、おとなと一緒に未来をつくっていこうとする姿勢に大きな拍手が!!!

★ 子どもたちからもらった宿題 ★

最後に ユニセフ東アジア太平洋地域事務所で緊急支援専門官として勤務する根本巳欧さんの講評。

「この取り組みは、『子どものための防災』『子どもと一緒に防災』を体現化した実例です。大人に対するメッセージは、『子どもたちからもらった宿題』。サポートしていく手段に反映したい」と話されました。

自分の意見を立派に発言する子ども。それをしっかり受け止め耳を傾けるおとな。このシンポジウムの様子はユニセフHPでご覧いただけます。1人でも多くのみなさまに見ていただけるとうれしいです。

http://www.unicef.or.jp/kinkyu/japan/2014_0328.html



世界の子どもたちは今



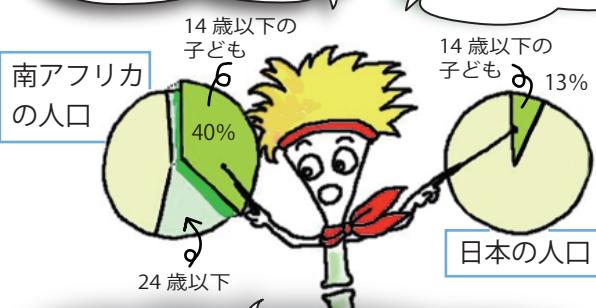
中央アフリカ
共和国



アフリカ大陸の真ん中に位置する中央アフリカは、1960年にフランスから独立しました。しかし独立以来、政情が不安定なまま紛争が絶えず、ユニセフは1968年から支援を続けてきました。近年、2012年に勃発した武力衝突で、無法状態が続き戦闘が拡大。230万人の子どもたちが危機にさらされています。また国民の5人に1人が国内外で避難生活を送っています。

★中央アフリカはどんな国？

この国は、国民の半分以上(60%)が24歳以下で、14歳以下が40%を占めるんだ。紛争が起きるとたくさんの子どもたちが巻き込まれ犠牲になっているんだよ。



さらに5歳までに亡くなる子どもの数は1000人あたり日本は3人。中央アフリカは129人。世界で6番目に多いんだよ。

★とらわれる子どもたち

ぼくは武装した男たちに家族を殺され、拉致されて、武器を渡され、盗みや殺人もさせられたんだ。

過酷な労働



子ども兵士

私の家は燃やされて、家族がどうなったかわからない。私と妹は毎日奴隸のように働かされているの。

性的暴力

2

★長引く避難生活

子どもたちは心も体も傷つけられ、暴力におびえ、トラウマに苦しめられているんだね。



それに、重度の栄養不良や、下痢やマラリアに感染して命を落とす子どもたちが増えているんだって。栄養不良は銃弾よりも多くの子どもの命を奪う…って言われてるんだよ。

ユニセフは、人道危機緊急募金を受け付けているよ。この国が立ち直り、子どもたちのあらゆる権利が守られるよう、これからも支援を続けて行こう！

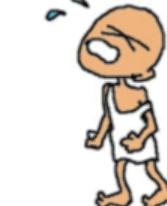
3

★ユニセフの支援

子ども兵士の解放

家族とはぐれた子どもの保護

水・栄養剤



絵を描いたり遊んだりしながら心のケアをしているんだね。

トイレ・手洗い

学習スペース



カウンセリング

『子どもにやさしい空間』の設置

生協のユニセフ支援活動 Partnership



「ユニセフ・ラブウォーク in 草加宿」を開催しました（コープみらい さいたまエリア）



3月30日、コープみらいさいたまエリア東南ブロック委員会と埼玉県ユニセフ協会が共催で、「ユニセフ・ラブウォーク in 草加宿」を開催しました。くらぶ「ライスクッキー」、「草加ウォーキング会」、「草加宿案内人の会」の協力のもと、84人が参加しました。

参加者は、「草加宿案内人の会」の皆さんに、松尾芭蕉像や石碑などの史跡をガイドいただきながら、国の名勝に指定された埼玉県草加市の草加松原遊歩道の松並木を、約2キロメートルウォーキングし、ゴールでは草加の史跡に関するクイズにも挑戦しました。

参加者からは、「ウォーキングでの募金イベントを初めて知りました。今後も参加したい」などの感想が寄せられ、参加費など16,800円をユニセフ募金としてお預かりしました。



あいにくの雨模様の天気でしたが、咲き始めた桜の花や史跡など自然や歴史に触れながら散策しました。



「あきたユニセフのつどい」を開催しました（秋田県生協連）



秋田県生協連は4月11日に、「あきたユニセフのつどい」を開催しました。県内の会員生協から41人の役職員・組合員が参加したほか、公益財団法人日本ユニセフ協会、日本生協連からも出席しました。

プログラムでは、秋田県生協連大川会長から日本ユニセフ協会へ2013年度のネパール指定募金1,784,033円の目録贈呈、会員生協の活動報告、教育についてのワークショップなどを行いました。



日本ユニセフ協会へ募金目録贈呈

日本ユニセフ協会の石尾さんからは「ネパール指定募金総括と新支援国東ティモールについて、フィリピン台風緊急募金・シリア緊急募金の報告」があり、秋田県生協連が9年間支援してきたネパールについての基礎知識を改めて学びました。募金の実績やネパール国内の5歳未満児死亡率や就学率などについての総括は、数値的にも大きな改善があり、長きにわたる募金活動の成果を感じる内容でした。

2014年度からの新たな支援国である東ティモールについても、新生児や母親へのケアが特に弱く、不十分な保健施設やシステム、基本的な知識の不足が大きな課題であることを学びました。



コープあきたの皆さん

このほか、秋田県生協連からも170万円以上が寄せられたフィリピン台風緊急募金については、全国の生協全体で1億円を超える大きな支援となったことが報告されました。



「フィリピン台風緊急募金」に 全国 86 生協から 1 億円超の募金が寄せられました！

2013 年 11 月 8 日にフィリピンに上陸した台風 30 号（ハイエン）は、多くの地域に甚大な被害を与え、約 590 万人の子どもたちが被災しました。被害を受けた地域の一部はまだ復興の途中で、町中にがれきが散乱するなど、今も台風の爪あとが大きく残されています。

被害を受けた子どもたちは未だ多くのサポートを必要としており、地域がかつての姿のように完全に復興するには数年かかる見込みです。課題も山積みですが、少しずつ復興の兆しも見えてきています。子どもたちは学校に通えるようになり、保健師たちも診療所に戻ってきて、水道も復旧しています。

※ 日本ユニセフ協会ホームページで、現地の詳しい情報を随時紹介しています。
<http://www.unicef.or.jp/kinkyu/typhoonhaiyan>

日本ユニセフ協会が11月11日から受付を開始した「フィリピン台風緊急募金」には、全国で 86 生協にお取り組みいただき、総額109,910,112円の募金が寄せられています（2014年4月 21日現在 日本生協連、日本ユニセフ協会把握分）。みなさまのご協力に感謝します。



©UNICEF/NYHQ2014-0121/GiacomoPirozzi

タクロバンに設置された「子どもにやさしい空間」の前で遊ぶ女の子

コーポさっぽろ	栃木県学校生協	コーピいしかわ	生協ひろしま
帯広畜産大学生協	ブリヂストン那須グループ生協	金沢大学生協	鳥取県生協
北海道生協連	よつ葉生協	福井県民生協	生協しまね
コーポあおもり	栃木県職員生協	福井県生協連	島根大学生協
コーポあきた	コーポぐんま	パルシステム山梨	コーポやまぐち
秋田県生協連	利根保健生協	コーポあいち	山口県生協連
いわて生協	群馬中央医療生協	愛知大学生協	コーポかがわ
岩手県学校生協	コーポみらい	自然科学研究機構岡崎生協	コーポえひめ
みやぎ生協	東都生協	コーポぎふ	こうち生協
あいコーポみやぎ	東洋大学生協	みなと医療生協	エフコーポ
東北大学生協	なのはな生協	コーポみえ	コーポさが
東北学院大学生協	パルシステム千葉	コーポしが	福祉生協いきいきコーポ
山形県学校生協	東京学芸大学生協	ならコーポ	コーポ熊本学校生協 (現:生協くまもと)
生協共立社	東京薬科大学生協	わかやま市民生協	グリーンコーポ共同体
コーポふくしま	自然派くらぶ生協	京都生協	ララコーポ
パルシステム福島	ユーコープ	おおさかパルコーポ	コーポおおいた
コーポあいづ	パルシステム神奈川ゆめコーポ	大阪いづみ市民生協	コーポみやざき
福島県南生協	富士フィルム生協	大阪よどがわ市民生協	生協水光社 (現:生協くまもと)
きらり健康生協	コーポにいがた	コーポこうべ	コーポかごしま
いばらきコーポ	CO・OPとやま	宝塚医療生協	コーポおきなわ
パルシステム茨城	コーポながの	神戸親和女子大学生協	
とちぎコーポ	長野県生協連	おかやまコーポ	



満25歳を迎える「子どもの権利条約」

2014年11月20日、「児童の権利に関する条約」(以下、「子どもの権利条約」)は採択25周年を迎えます(1989年の第44回国連総会において採択され、1990年に発効しました。日本は1994年4月22日に批准して、20年になりました)。

「子どもの権利条約」は子どもの基本的人権を国際的に保証するために定められた条約で、18歳未満を「児童(子ども)」と定義しています。



★ ユニセフと「子どもの権利条約」

ユニセフは、国連人権委員会で「子どもの権利条約」の草案作りに参加。国連総会での採択ならびに各国政府による批准を促すため、全世界で広報・アドボカシー[※](政策提言)活動を行いました。条約発行後、ユニセフは、本条約の執行状況を確認し参加国に助言を与える「子どもの権利委員会」に参加するとともに、世界150以上の国と地域で実施する支援活動、ならびに日本を含む先進各国でのアドボカシー活動などを通し、条約にうたわれている権利の実現をめざしています。

※62号、63号の「知っとこ。ユニセフ」でも紹介

★ 「子どもの権利条約」の成果と課題

条約採択後のこの25年間に、5歳未満の子どもたちの死亡率は低下し、危険な労働を強いられている子どもの数も減少しました。しかし、こうした成果から取り残されている子どもたちもまた数多く存在しています。条約を批准した各国政府は、条約の各条項が規定する子どもの権利を実現するために、国内法の整備など具体的な施策を整えなければなりません。

人権史上画期的な試みには、まだ多くの課題が残されています。

★ ユニセフが提唱する”子どもの参画”

「子どもの権利条約」には4つの柱(生きる権利、守られる権利、育つ権利、参加する権利)がありますが、ここでは4番目の柱「参加する権利」について、ユニセフが提唱する”子どもの参画”的具体例を紹介いたします。

この春、3月27日にユニセフ・ハウスにおいて、『未来をつくる私がおとなに伝えたいこと～子どもと築く復興まちづくり』と題したシンポジウムが開催されました。

会場では、東日本大震災の被災地の学校の子どもたちも、震災の体験から学び考えた事などを発表しました。

これから社会を背負う子どもたちが、おとなと一緒に未来をつくっていこうとするこうした姿勢は、2010年に起きた「ハイチ大震災」後、首都ポルトープランスで、ユニセフの主導で行われた会議「子どもと若者の参加運動—子どもたちのための変革に向けた課題—」でもみられ、会場ではハイチの若者50人が自分たちの意見を表明していました。

(参考資料：日本ユニセフ協会HP ユニセフについて「子どもの権利条約」
東日本大震災復興支援 第226報、第229報 ぼむ・ぼむ通信No.50「ハイチ大震災」)



第32回ユニセフ・ラブウォーク中央大会が開催されました



© 日本ユニセフ協会/2014
満開の桜を楽しみながら優雅に歩く参加者の皆さん

思い思いのペースで歩いた汗が、ユニセフを通じて開発途上国の子どもたちの健康に役立てられるユニセフ・ラブウォーク。参加費がユニセフ募金となるこの運動は1965年にイギリスで生まれ、日本では1983年に始まりました。毎年4月の第1日曜日に、港区高輪のユニセフハウスを会場とした中央大会が開催されています。

32回目を迎えた今年は、4月6日(日)、“栄養不良から小さな命を守ろう”をテーマに、ユニセフが最優先で支援に取り組んでいるアフリカ諸国の大使館(港区と渋谷区)前をめぐるコースで開催されました。

この日は朝から本格的な雨で実施が心配されましたが、歩き始める頃には雨は上がり、青い空と春の日差しの中でのラブウォークとなりました。ゴール近くのマラウイ、エチオピアの大使館は同じビルの中に入り、外の案内板で確認。参加者は、額に汗を光らせながら、達成感に満ちた爽やかな笑顔でユニセフハウスへ戻ってきました。

今大会は総勢539人の参加があり、参加費・募金あわせて38万2,222円が集まりました。この参加費の一部は、ユニセフが世界各地で実施している子どもたちへの栄養支援やお母さんに対する栄養知識の普及などの活動に活用されます。

△参加も企画もできる、ラブウォーク△

参加費が世界の子どもたちの健康を守るために募金となり、参加者自身も健康であることの喜びを実感するきっかけになるラブウォークイベントは、年間を通じて全国各地で行われています。

あなたもアイディアが詰まった楽しいラブウォークを企画・運営してみませんか。あなたの知恵・企画力・行動力が、世界の子どもたちの命を守る活動へつながります。

※開催の手引きなどのお問い合わせは右記まで。



©日本ユニセフ協会/2014
ゴールした子どもたちハイ、チーズ！
「がんばったね！お疲れさま！」。言葉は話せなくとも、全身を使って、パディントン™が労いの気持ちを一生懸命伝えていました。

【お問い合わせ】

(公財)日本ユニセフ協会

団体・組織事業部 ラブウォーク担当

電話: 03-5789-2012

Eメール: event-dr@unicef.or.jp

2013年度ユニセフ募金集計報告

全国の生協が組合員に協力を呼びかけて集約された2013年度のユニセフ募金は、一般募金、緊急募金、指定募金を合わせて約2億8千万円となりました。指定募金は、コープネット事業連合やユーチュープ事業連合の牛乳（コープ牛乳）の購入を通じた募金や、地域ごとに取り組まれているラオス・ネパール・ブータンへの募金、CO・OPコアノンロールやCO・OPワンタッチ芯までロールの購入を通じたアンゴラへの募金等で、約6,900万円が寄せられました。また、2013年11月に発生した台風30号に伴うフィリピン台風緊急募金には、数多くの生協にご協力いただき、約1億1千万円が集まりました。

全国の生協の募金額集計を開始した1983年からの累計総額は、約77億6千万円となりました。皆さまのご協力に感謝します。

全国の生協のユニセフ募金内訳(2013年度・2012年度)

(単位:円)

募金種別		2013年度	2012年度
① 一般募金計		75,589,404	78,701,510
指定募金	ネパール女性と子どものための地域開発※1	19,282,107	12,308,068
	ラオス初等教育平等化プログラム※1	15,679,233	19,375,885
	ブータン水と衛生	12,379,398	11,720,563
	モルディブ栄養と環境改善	4,844,692	16,671,694
	インド教育※2	173,181	—
	モザンビーク栄養プログラム※3	941,136	20,641,651
	マラウイ教育支援プロジェクト	4,409,726	4,295,397
	アンゴラ教育	11,227,510	9,128,901
	ブルキナファソ衛生※4	—	2,672
	マダガスカル水と衛生※4	884	—
緊急募金	マリ水と衛生※5	7,974	11,494
	② 指定募金計	68,945,841	94,156,325
	東日本大震災緊急	101,412	553,121
	ソマリア干ばつ緊急（アフリカ緊急募金を含む）	—	80,000
	アフリカ干ばつ緊急	—	987,533
	シリア緊急	25,499,214	3,677,730
	フィリピン台風緊急	109,248,310	—
	ハイチ地震	11,750	—
	自然災害	299,946	517,517
	③ 緊急募金計	135,160,632	5,815,901
総合計(①+②+③)		279,695,877	178,673,736

(2013年4月1日～2014年3月31日までの日本ユニセフ協会入金分を集計)

※1 送金時期の関係で、当該数値になっています。

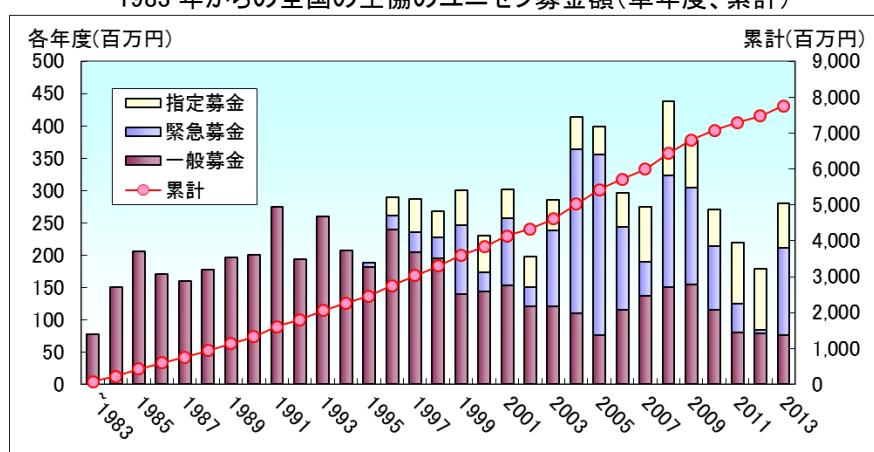
※2 千葉・茨城・岐阜・佐賀・熊本の各県ユニセフ協会が実施する指定募金です(2014年度開始)。

※3 2013年度はハッピーミルクプロジェクト(モザンビーク)最終年度の個人募金分のみです。

※4 生協だけでなく一般にも公開されている分野・地域指定募金です。

※5 ダノンウォーターズオブジャパン社が取り組むVolvic 1L for 10Lプログラムを通じたマリの水と衛生プロジェクトへの協力分です(大学生協東海事業連合によるご協力)。

1983年からの全国の生協のユニセフ募金額(単年度、累計)



※1983年～1994年までの募金種別内訳は不明

ぼむ・ぼむ広場

編集後記

◆ 信じられない出来事でした。犠牲となった人が 80 万とも 100 万ともいわれたアフリカ中部ルワンダの大虐殺が始まった日から、4 月 7 日でもう 20 年になりました。追悼式典で点火された灯は、虐殺が行われたのと同じ 100 日間、燃え続けるとか。当時、残虐な殺戮の現場にいた子どもたち、孤児は 9 万人を超え、内戦中に虐殺に関わったとして告訴された子どももいました。

今号の「世界の子どもたちは今」で紹介した中央アフリカ共和国も 10 年以上も前から国の窮状（人道危機）を国際社会に訴えています。

ご支援くださる皆さんに今どんな情報が必要なのか、ぼむ・ぼむ通信が「伝え共有する」役割を強く感じています。（H）

ユニセフ*コープネットワーク

ぼむ・ぼむ通信

No. 64 2014 年 6 月 18 日発行

編集 グループ ぼむ・ぼむ

スタッフ／編集／小池・武田・立川・土橋・浜崎・
松本・山本・石尾・中村・阿久根
イラスト／蜷沢

発行 日本生協連 組合員活動部

〒150-8913

東京都渋谷区渋谷 3-29-8 コープ プラザ 11F

TEL03-5778-8124 FAX03-5778-8125

ホームページ <http://jccu.coop/unicef/>

○次号は、2014 年 9 月 16 日に発行予定です。

ぼむ・ぼむ通信・ひとことカード

今回の「ぼむ・ぼむ通信」はいかがでしたか？ご感想やご意見・ご要望をお寄せください。次号以降の参考にさせていただきます。

生協名：_____

氏名（ペンネーム可）：_____ 《組合員・役職員・その他》

ご協力、ありがとうございました！

右記の宛先までお送りください。 宛先：日本生協連 組合員活動部 FAX：03-5778-8125
MAIL：kumikatsu@jccu.coop